

令和3年度年末年始における 県内の主な温泉地及びスキー場の観光客数の状況について

1 調査期間

令和3年12月29日（水）から令和4年1月3日（月）まで（6日間）

2 結果概要

（1）県内主要温泉地宿泊者数

	R3年度	R2年度	R2年度比	R元年度比
草津温泉	45,485人	26,422人	172.1%	87.4%
水上温泉郷	34,400人	15,050人	228.6%	84.2%
伊香保温泉	22,576人	12,425人	181.7%	69.0%
四万温泉	8,078人	4,060人	199.0%	77.5%
万座温泉	7,500人	3,933人	190.7%	72.1%
老神温泉	4,377人	2,395人	182.8%	81.6%
猿ヶ京温泉	3,554人	1,756人	202.4%	67.3%
磯部温泉	3,183人	1,242人	256.3%	99.9%
やぶ塚温泉	726人	255人	284.7%	80.2%
計	129,879人	67,538人	192.3%	80.6%

（2）県内スキー場地区別利用者数

	R3年度	R2年度	R2年度比	R元年度比
片品地区	57,816人	53,023人	109.0%	99.0%
吾妻地区	48,694人	28,176人	172.8%	91.3%
水上地区	46,062人	35,843人	128.5%	135.0%
その他地区（※）	29,588人	24,007人	123.2%	78.3%
計	182,160人	141,049人	129.1%	99.2%

※その他地区＝沼田市・川場村

3 概況

（1）県内の主な温泉地の宿泊状況について（温泉地への聞き取りによる）

- ・主な温泉地の宿泊者数は前年度比192.3%と大幅に増加し、前々年度比でも約8割まで回復した。
- ・増加の要因としては、新型コロナウイルスの感染が落ち着いていたことや愛郷ぐんまプロジェクトの影響等によるものと考えられる。

（2）県内スキー場利用状況について（スキー場への聞き取りによる）

- ・県内スキー場の利用者数は前年度比129.1%と大幅に増加し、コロナ感染拡大前の前々年度比でもほぼ同数の水準まで回復した。
- ・増加の要因として、温泉地の宿泊状況と同様に、新型コロナウイルスの感染が落ち着いていたことや年末にかけて降雪が多かったこと等が考えられる。

※本調査は、対象市町村、観光協会等が温泉地の宿泊者数及びスキー場利用者数を調査し、県及び県観光物産国際協会が集計した。